

火災から命を守る避難



命を守る避難のためには、

- ① 避難開始までの時間を早くする（早く知り、行動を開始する）
- ② 避難行動時間を短くする（状況判断力の向上で迅速な避難）
- ③ 延焼・煙拡散時間を抑制する（建物の防火性能向上で、炎、煙の拡散防止）

が重要な要素となります。



京都市消防局

KYOTO CITY FIRE DEPARTMENT

火災人命危険レベル

火災発生時に避難者が取るべき避難行動を考えるうえで、火災の状況を3段階に区分し、レベルに応じた避難行動を例示しました。火災時に避難する場合は、自分は今どの火災人命危険レベルにいるのかを判断して行動してください。

火災人命危険レベル		
レベル1 階段に煙がなく 使用可能な状況	レベル2 階段が煙により 使用できない状況	レベル3 階段及びフロア全体に煙が 流入し、避難者自身が煙に 覆われ危機的な状況

主な避難行動の例		
【階段を利用して地上、下階へ避難】 <ul style="list-style-type: none">○ 階段が複数ある場合は、煙が流入していない階段を選択して避難 <p>火災の多くは このレベルで避難できます！ いつもの避難訓練もレベル1</p>	【階段以外からの避難等】 <ul style="list-style-type: none">○ 窓、ベランダ等から避難器具での避難○ 窓、ベランダ等、外気に触れる場所への避難(救助を求める)○ 一時避難スペースへの避難、待機(救助を求める) <p>万が一に備えて レベル2、レベル3を 想定した避難訓練を！</p>	【煙に覆われた状態からの脱出】 <ul style="list-style-type: none">○ 身を低くして最小限の呼吸で、冷静に避難○ 光や壁を頼りに窓、ベランダ又は直近の一時避難スペースを検索、避難 【階段以外からの避難等】 <ul style="list-style-type: none">○ 窓、ベランダ等から避難器具での避難○ 一時避難スペースへの避難、待機(救助を求める)○ 窓、ベランダ等からぶら下がり避難(2階に限る)

火災時の火煙の状況と避難行動

室内で発生した火災の煙は、まず天井に広がってから床面へと下がり、やがて部屋全体が煙に覆われます。また、煙が階段や吹抜けを伝って急速に上に広がり、階段室に流入すると、階段を使って避難できなくなることがあります。

